授業科目名	視覚デザイン論		
授業担当者名	尹　成濟		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	3・4年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	222-1GNL3-05
備考	VCD領域必修科目 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	本授業は、ビジュアルコミュニケーションデザインとは何かについてから学習し、ビジュアルコミュニケーションデザインを学ぶ学生にとって将来どのような領域に進むとしても最低限修得しなければならないデザイン知識を中心に講義を設定している。ビジュアルコミュニケーションの領域は広く、多様なメディアが存在し講義の中で様々な方法で紹介することになる。これをもとに学生自身が将来自分の専門性や研究対象をどこにおくか、これからの学習の指針にもなればと考えている。
ディプロマポリシーとの関連	知識・技能・表現◎
授業の概要	ビジュアルコミュニケーションに関わったメディア史を身体、道具、複製、機械、バーチャル空間の5つの次元に分けて学習する。またこのことを通してデザインを完成させている基本的な事柄について考えて行くことを軸に、人間と身体性、機能、技術、美学、構造、情報の意味などをビジュアルコミュニケーションデザインのさまざまな観点で考察する。この授業は、通史的な講義にならないようにと考えている。授業計画のテーマに関係ある具体的なものを対象にそれをめぐってできるかぎり学生諸君とディスカッション形式で進めていくことを考えている。
学生に対する評価の方法	1. 授業への取り組み姿勢（授業態度20%） 2. 1回から5回の講義内容の試験問題、レポート（30%） 3. 提出物（ピクトグラム研究25%・ビジュアル記号の分析25%）
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	○情報化社会におけるビジュアルコミュニケーションデザインの役割-歴史的観点から 第01回　5つの次元からみるコミュニケーションデザインの変遷と初期のコミュニケーション ルネサンスから近代までの表現・記述手段の考察 - メディアの複製　グーテンベルクの42行の聖書 第02回　日本と近代の工芸デザイン(美術工芸運動とモリス、アール・ヌーヴォー、アール・デコ) 第03回　DWBとヴァン・デ・ヴェルデとヘルマン・ムテジウスによる「規格化論争」バウハウスとグロピウス／ロシア構成主義とヨーロッパのデザイン 第04回　19世紀末から20世紀の芸術とグラフィックデザインへ浮世絵から商業美術へ／日本のグラフィックデザイン、ヨーロッパのモダン・タイポグラフィ 第05回　20世紀後半の情報機器の出現とビジュアルコミュニケーションチャールズ・イームズの映像作品(映像資料)／ノーマン・マクラーレンと初期のアニメーション作り(映像資料)／オースカ・フィッシンガー映像作り、ソール・バスとモーションタイポグラフィ … など(映像資料)これからのビジュアルコミュニケーションデザインとメディアの考察／レポート提出 ○コミュニケーションとビジュアルデザインの考察 第06回　コミュニケーションのモデルと分類の理解 - 視覚言語／オットー・ノイラートとアイソタイプ ／東京オリンピックとピトグラムによるノンバーバルのコミュニケーションの考察。 第07回　ピクトグラムの考察と研究1 歩く・走る・跳ぶの身体構造と伝わる形のデザインについて考察(グループワーク) 第08回　ピクトグラムの考察と研究2 考察内容の検討と分析(グループディスカッション) 第09回　ピクトグラムの考察と研究3　指定ユニットによるpictogramのかたち提案 第10回　ピクトグラムの研究結果プレゼンテーション／まとめ提出 ○シンボルの機能の考察とビジュアルメッセージの役割 第11回　ビジュアルコミュニケーションにおけるシンボルの機能の考察(ビジュアル記号の役割と分析) パッケージの機能とビジュアルエレメントの機能と分析(グループワーク) 第12回　ビジュアルコミュニケーションデザインのエレメントの機能(グループディスカッション／分析) 第13回　ビジュアルコミュニケーションデザインのエレメントの機能(他グループからの視点／検討) 第14回　ビジュアル記号の役割と分析についてのまとめ(グループワーク／プレゼン内容のまとめ) 第15回　パッケージの機能とビジュアルエレメントの機能と分析の研究結果のプレゼンテーション／まとめ提出／学生受講結果アンケートの実施
使用教科書	参考文献や作品事例は授業を通して適宜提示、配付する。 主な資料は「POWERS OF TEN（チャールズ・イームズ）」「ノーマン・マクラーレン」「オースカ・フィッシンガー」「ソール・バス」「ケルムスコット・プレスおよび19世紀末の絵本（モリスほか）」「イタリア未来派によるグラフィック・ワーク」「リシツキーなどのロシア・アヴァンギャルドのグラフィック・ワーク」「バウハウスのグラフィック・ワーク」「ワールド・ジオグラフィック・アトラス（ハーバート・バイヤー）」「アイソタイプ（オットー・ノイラートなど）」など。
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	講義の内容を良く理解し、来年度の卒業制作や研究領域に生かしてほしい。授業内容をよりよく理解するために授業時に示される次回の授業内容について予習をする。授業時に生じた疑問点については、各自調べレポートにまとめる。

授業科目名	事業構想論		
授業担当者名	三尾　幸司		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	3・4年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	222-1GNL3-07
備考	実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	事業（ビジネス）の構想および経営に関する基本的な知識を身につけ、構想する上でのテクノロジーや社会課題、デザインとの関連性を学ぶ。受講者が自発的に問題意識を持ち、事業（ビジネス）とデザインとの密接な関係について考え、ビジネスシーズやニーズを発見し、自ら事業を創り上げる力を養うことを到達目標とする。
ディプロマポリシーとの関連	知識・技能・表現◎
授業の概要	事業（ビジネス）とは、何も利潤追求を第一義的目的とする企業活動だけを指す言葉ではない。身近なところでは大学の部活動やサークル活動、地域のボランティア活動なども立派な事業である。ポイントは何のために、あるいは誰のために行なう事業なのか、その意義や目的を設定して事業を構想し経営することであり、デザインの考え方が大変重要となる。本科目では事業構想に関わるデザインやフレームワークを学び、事例から基本概念や仕組み、起業家精神を理解し、自ら事業や企画を立上げることについて考えて行く。また、社会課題解決や社会貢献につながるこれからの未来を築きあげるサステナブルな事業を考える。 授業の構成として、講義（インプット）の後には、グループディスカッション（アウトプット）を実施。
学生に対する評価の方法	1 授業への出席・参画態度、グループワークへの参加(30%) ・授業終了後に 2 のレポートと併せてGoogle formにて出席連絡 ・グループワークの結果を授業の最後に記載 2 毎週のレポート（授業の感想や考察、質問）(30%) 3 授業の14週目以降に行なうレポート提出(40%) ・下記の選択 　①企業の事業モデルを整理して考察する 　②自身の事業アイデアを元に企画書作成 以上の3点より各授業項目の理解度を判定し、総合的に評価を行う。 授業中の積極的かつ自発的な質問は高く評価し採点に加味する。
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	■回数ごとの内容 第01回　オリエンテーション／事業構想とは何か？ 第02回　シーズとニーズ／起業家の行動原則 第03回　エフェクチュエーション 第04回　社会課題分析（PESTと課題整理手法） 第05回　デザイン思考とインサイト 第06回　アイディエーション 第07回　顧客課題とバリュープロポジション 第08回　プロトタイピングモデル 第09回　プロフィットモデル（マネタイズ） 第10回　マーケティング戦略 第11回　社会デザインとソーシャルビジネス 第12回　社会デザインと行動経済学 第13回　地方創生と地域ビジネス 第14回　テクノロジーとデザイン 第15回　事業構想まとめ　学生受講結果アンケートを実施 ■授業技法 ・1回目、15回目が大学構内で開催 ・2~14回目はオンライン（zoom）での講義 ・オンライン講義の流れ： 　前回の講義の復習と質問への回答、講義、グループディスカッション　という形で構成
使用教科書	教科書は特に定めない。 授業の内容に応じて、随時、参考図書を推薦する。
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	①興味・関心のある企業およびサービスや事業について、授業で紹介された方法論やフレームワークを活用し、分析・考察すること。（60～90分） ②起業に関心があるならば、授業に沿って、事業構想案を作っていくことを薦める。

授業科目名	デザインプロデュース基礎Ⅱ		
授業担当者名	井垣　理史、谷口　友帆、山田　厚志		
単位数	4単位	開講期（年次学期）	2年次後期
教員担当形態	複数、オムニバス （主担当：井垣 理史）	ナンバリングコード	222-3DPM1-02
備考	DP領域 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	この授業では大学に隣接する竹の山地区をフィールドに、調査方法やアイデア抽出、プレゼンテーションなどの能力を段階的に身につけていく。現場に自ら足を運んで調査分析を行ない、積極的に共感を生むベースをつくる。問題点の抽出から解決策まで、統合的かつ前向きに思考する姿勢を養い、自分たちで実践可能な企画を個人またはチームで提案する。
ディプロマポリシーとの関連	思考力・判断力・創造力◎／協同力○
授業の概要	商品や試用する道具、企画など、主に「コト」を派生させるシステムを考案して問題解決に当たる。実存する人・団体を対象とするため、現場調査を基本姿勢とする。調査分析・問題発見の後に、ディスカッションを通して着目すべきポイントを絞り、解決策を考案する。またプロトタイプ（試作）制作を行い、視覚化されたプレゼンテーションを行う。パートナーからのフィードバックを含め実現性の高い企画を成立させる。
学生に対する評価の方法	具体的な企画立案のプロセスにおいて、市場や現場の調査分析書、企画書、スケッチなど、随時レポートを提出する。 課題への取組み姿勢、チーム運営の状況（60%） 提出物の質や深度（40%）
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	4コマ中2コマ：井垣・山田・2コマ：谷口 第01回　オリエンテーション：課題説明 第02回　調査～事前調査、訪問準備 第03回　調査～現地調査（共感する） 第04回　分析～着目点の整理（問題の定義） 第05回　立案～ディスカッション（創造的解決） 第06回　立案まとめ、プレゼン準備（創造的解決） 第07回　学内プレゼンとディスカッション（創造的解決と試作） 第08回　修正とプレゼン準備 第09回　中間プレゼ（フィードバック） 第10回　修正～フィードバックを受けての試作① 第11回　修正～フィードバックを受けての試作② 第12回　修正～フィードバックを受けての試作③ 第13回　プレゼンテーション準備 第14回　最終プレゼンテーション／企画の実践 ※企画実践日が週末になる場合は、学外研修として実施する。 第15回　講評、質疑応答のディスカッション（フィードバック） 学生受講結果アンケートの実施
使用教科書	教科書：UXデザインの教科書（安藤昌也著／丸善出版） なお、授業進行に応じて、必要の都度に相関資料や文献・プリントなどを随時提示、配付する。
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	データの整理と共有を徹底すること。計画を徹底的に行い実行すること。授業時間外にパートナーを訪問する場合は、必ず事前にアポイントをとること。

授業科目名	デザインマネジメント		
授業担当者名	冨安　由紀子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	3・4年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	222-1GNL3-06
備考	実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	デザインマネジメントとは、商品や市場活動のコミュニケーションツールの造形を行うだけでなく、企業活動の戦略にデザインを活かし、戦略そのものの決定にデザイン思考を取り入れることを含む。近年、企業の経営戦略の中で注目されるデザインマネジメントについて、その基礎知識を学習し、把握・理解することをテーマとする。また、実社会における広汎なデザインの活用を知り、広義のデザインとしての知見を活用することを目標とする。
ディプロマポリシーとの関連	知識・技能・表現◎／思考力・判断力・創造力〇
授業の概要	デザインマネジメントの基本概念、広範な分野にわたるその展開手法や実例について述べる。スタイリングとしてのデザインを行う際にも、前提条件が設定される流れを知るべきであり、マネジメントされるする側、される側の双方の視点で解説する。
学生に対する評価の方法	レポートなどの提出物の内容（80%） 質疑など授業への参画態度（20%）
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　デザインマネジメントの必要性 第02回　デザインによる差別化の戦略 第03回　デザインによる差別化戦略の詳細 第04回　デザインコントロールの技術① 第05回　デザインコントロールの技術② 第06回　デザインとブランド、ブランディングデザインという考え方 第07回　ブランディングの事例 第08回　日本企業のブランディング 第09回　デザインとマーケティング 第10回　人間工学の視点で考える消費者像とデザイン 第11回　文化人類学の視点で考える消費者像とデザイン 第12回　イノベーションとデザイン 第13回　意味のデザイン：デザイン思考とデザイン・ドリブン・イノベーション 第14回　戦略としてのデザイン、デザイン経営 第15回　マネジメント態度とデザイン態度
使用教科書	教科書は使用しない。経産省や特許庁の資料を抜粋して配布するほか、授業スライドにて補足する。 参考図書：「デザインマネジメントの教科書」森永泰史著（同文舘出版）、「デザインの次に来るもの」安西洋之・八重樫文著（クロスメディア・パブリッシング）、「デザイン・ドリブン・イノベーション」ロベルト・ベルガンティ（NextPublishing）
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	配布資料を読み込み、用語を理解しながら疑問点を整理すること（週60分程度）。授業内容と社会や企業のデザイン事象を照らし合わせ、分析・評価すること（週120分程度）。

授業科目名	印刷論		
授業担当者名	伊藤　公一		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	222-1GNL2-18
備考	実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	デジタルによる表現の発達で情報の“伝え方”は年々多様化が進んでいる。 しかし“印刷物”が消えることはない。 “印刷”はその特性を活かし、情報伝達の重要な役割を担っている。 本授業で“印刷”について学ぶことにより、その特性を活かした印刷物を制作するには、どのようにしたら良いかを考え、効果的なビジュアル表現ができるようにすることを目標とする。
ディプロマポリシーとの関連	知識・技能・表現◎
授業の概要	授業は、パワーポイント等を用いた講義資料で行い、できるだけ理解しやすいように工夫して説明する。 講義は「印刷の定義」を学ぶことから始め、「印刷の歴史を通して印刷の果たした役割」、「現代の印刷手法」を学習する（7講義）。 また、「印刷用紙」、「色に関する知識」や「印刷インキ」に関する知識習得に進む（4講義）。 次に、「製版（プリプレス）の基礎」、「加工表現」、最新の「デジタル印刷」を学ぶ（3講義）。 各講義に対する質問事項に答え、各講義で前回レビュー（復習）をしながら、新しい項目に進む。
学生に対する評価の方法	① 各回講義終了時、「質問」「要望」「所感（感想）」を記入し提出（10%） ② レポート2回（20%） ③ 授業内容の理解度をチェックする試験（70%） 以上３点から総合的に判断して評価する。
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　ガイダンス（講義概要、評価方法など） 身近な印刷物／印刷の定義／印刷の4大版式 第02回　印刷の歴史（１） 紙の定義・歴史／木版印刷／朝鮮活字／百万塔陀羅尼経 第03回　印刷の歴史（２） グーテンベルク／銅版印刷／石版印刷（リトグラフ） 第04回　現代の印刷（１） 凸版（活版印刷／フレキソ印刷） 第05回　現代の印刷（２） 凹版（銅版印刷／グラビア印刷） 第06回　現代の印刷（３） 孔版（謄写版（ガリ版）／シルクスクリーン） 第07回　現代の印刷（４） 平版（オフセット印刷） 第08回　紙（印刷用紙の基礎知識） 印刷用紙の分類／印刷用紙の特性 第09回　「色」ってなに？ 可視光線／眼の仕組み／加法混色／減法混色 第10回　色とカラーマネージメント 色空間／色再現域／プロファイル／RGB→CMYK変換 第11回　印刷インキの基礎知識 インキの組成／多種多様なインキ 第12回　製版（プリプレスの基礎） 面付け／RIP・網点／プルーフ・校正 第13回　加工表現 折加工／製本加工／表面加工 第14回　デジタル印刷 UVインクジェット／オンデマンド印刷／インクジェットプレス 第15回　筆記試験／学生受講結果アンケートを実施
使用教科書	適宜資料配布　特に教科書は定めない。
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	授業で学んだことをレポートにまとめ提出する(都度指示をする)

授業科目名	マーケティングコミュニケーションデザイン		
授業担当者名	古川　雅博		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	3年次前・後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	222-1VCD3-04
備考	実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	この授業は、社会に対してのメッセージと表現をどのように行なうのかといったビジュアルコミュニケーションデザインの応用のひとつとして位置づけられる。 この授業では、実社会に存在する商品(ブランド)をお題として、そのモノの「長所・短所」や「市場環境」や「社会背景」を分析し、その商品の課題を発見し、アイデアのある課題解決策を可視化するという、実社会での広告作りの一連の流れを修得する。 モノと人の新たな関係や、モノと社会の新たな関係を提案する、全体プロモーションを企画制作して行きながら、ビジュアル表現とコピー表現が響きあってこそ、人の心を動かすという、広告づくりのコツを学ぶ。授業で制作する広告作品は、ひとつの媒体に留まらず、複数の媒体を活かした、広がりのあるコミュニケーション展開をカタチにしていくことで、ひとりの広告デザイナーにとどまらず、アートデイレクターの入口に立つスキルを身につけるのが、到達目標となる。
ディプロマポリシーとの関連	知識・技能・表現◎／思考力・判断力・創造力○
授業の概要	広告の役割を理解し、最初の演習課題で広告の組み立て方を学び、本課題で実社会での広告作りの一連の流れ（企画・制作・プレゼン）を体験することで、広告クリエーターとしての「発想力と企画力」「表現力」「展開力」「提案力」を身につけていく。
学生に対する評価の方法	企画力（提案力・メッセージ性・新しさ・時代性）（35%）＋表現力（オリジナリティ・創造性・完成度）（35%）＋取り組み姿勢（出席状況・提出課題・努力度）（30%）の基準で、総合的に評価する。
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　記憶に残る「広告・キャンペーン」についてのレポートと考察　※第1課題発表＋古川雅博の仕事紹介＋広告とは何か　演習課題①講評（写真表現＋広告におけるシズル写真例の紹介＋撮影演習） 第02回　演習課題②講評（コピー表現＋広告における名作コピー例の紹介） 第03回　演習課題③講評（イラスト表現＋広告におけるイラスト例の紹介） 第04回　第1課題プレゼン／第2広告課題のオリエン（クライアントによるオリエン）＋広告課題の進め方（企画制作10週の内容） 第05回　広告課題の中間チェック(1) ブランドの調査＆分析、課題の抽出＋企画・ラフスケッチの制作 第06回　広告課題の中間チェック(2) カンプ制作（カンプとして成立するようアイデアを精査する。） 第07回　広告課題の中間チェック(3) 広告の具体的な表現制作 第08回　広告課題の中間チェック(4) 広告の具体的な表現制作 第09回　広告課題の中間チェック(5) 広告の具体的な表現制作＋他媒体への展開企画 第10回　広告課題の中間チェック(6) 広告の具体的な表現制作＋他媒体への展開の最終的な宣伝表現制作＋展示会告知ツールの企画制作 第11回　制作アドバイス①完成度アップ、他媒体との連動性＋展示会告知ツールの企画制作 第12回　制作アドバイス②入稿データの制作・印刷＋展示会告知ツールの企画制作 第13回　制作アドバイス③プレゼンテーションの準備・資料制作＋展示会告知ツールの企画制作 第14回　各自の作品プレゼンテーション＋講評会 第15回　展覧会の展示設営 / 学生受講結果アンケートを実施する。
使用教科書	参考資料や作品事例は授業を通して適宜提示、配付する。
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	「広告」の作品が載っている、ADC年鑑(ビジュアル中心)、TCC年鑑(コピー中心)、ACC年鑑、日本タイポグラフィ年鑑などの書籍や、海外賞の受賞作品アーカイブを見て研究する。 ※課題成果物およびポートフォリオを前期は「コンタクト展」、後期は「なごやVISION展」などに出品し、社会から評価を受けることを推奨する。※課題成果物を日本タイポグラフィ年鑑（学生部門）への応募を推奨する。

授業科目名	建築史		
授業担当者名	中村　雅一		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	3・4年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	222-1GNL3-02
備考	2級建築士受験資格課程科目 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	デザイナーとしての教養や技術的知識、グローバルな空間デザイン史を学ぶ。 (1)空間デザインに必要な建築言語を学ぶため西洋建築史を知る。 (2)日本の茶室や数寄屋の知識を学び日本デザインの「粋」を理解する。 (3)どの分野のデザイナーでも知っておきたい「（日本の）ハレとケ」「（茶室の）結界」「マニエリスム」「ポストモダン」等の建築用語。その内容を理解するため、写真や図面を通じて建築史を学ぶ。
ディプロマポリシーとの関連	知識・技能・表現◎
授業の概要	写真や動画・図面を見せながら説明する。 建築を各時代のデザインの潮流や技術の集大成として学ぶ。 過去の建築様式が現代デザインにつながっている事への理解を促す。 建築史を知る事でデザイナーとしての技法を増やせるように工夫する。 歴史的な伝統デザインを知ったうえで自分の個性を表現する真のデザイン能力を育成する。
学生に対する評価の方法	筆記試験60%、受講姿勢40%で評価する。
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　西洋建築①ギリシャ建築とオーダー： エンタブレチュア、コーニス、フリーズ、アーキトレーブ 第02回　西洋建築②ローマ建築： アーチ(+ヴォ-ルト+ド-ム)とコンクリートと付け柱の発明 ウィトルウィウスと建築十書 第03回　西洋建築③ビザンチン建築とロマネスク建築： 東ローマのアヤ･ソフィア 交差ヴォールト,ペンデンティブ 西ローマ帝国の滅亡後もローマ様式を伝えたピサの大聖堂 第04回　西洋建築④ゴシック建築：尖塔、交差リブヴォールト、 バラ窓、フライング・バットレス 第05回　西洋建築⑤ルネサンス建築：ブルネレスキと尖塔ドーム。 アルベルティ「建築論」。ヴァチカン宮殿と巨匠ブラマンテ。 初の建築家パラディオとその建築理論の集大成「建築四書」。 マニエリスム建築とヴァザーリ著「画家・彫刻家・建築家列伝」 第06回　西洋建築⑥バロック建築、ロココ建築と新古典主義建築 イタリア発祥のバロック建築(ベルニーニとボッロミーニ) 第07回　西洋建築⑦産業革命と世紀末建築,サリヴァンと天才ライト 第08回　西洋建築⑧近代建築とモダニズム：バウハウスとＣＩＡＭ 第09回　西洋建築⑨ポストモダンと脱構築主義 第10回　日本建築①寺院建築 神社建築 寝殿造り：ハレとケ 第11回　日本建築②書院造と茶室と数寄屋：日本デザインの粋 第12回　日本建築③明治と洋風：辰野金吾と片山東熊、分離派運動 第13回　日本建築④戦後日本建築：前川國男、坂倉純三、吉村順三 丹下健三門下のメタボリズム建築,磯崎新、槇文彦、黒川紀章 村野藤吾、菊竹清則、安藤忠雄、伊藤豊雄、SANAA,伴茂 第14回　21世紀の最新建築とコンバージョン事例 第15回　テストと学生受講結果アンケートの実施
使用教科書	「建築史」編集委員会編集　「建築史」　彰国社
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	今はWebで世界の名建築の写真や動画を観られる。Google Earthで世界の建築を見て回れる。建築史を学ぶには素晴らしい時代だ。本学図書館にも多くの素晴らしい建築書があるので予復習に活用してほしい。

授業科目名	環境デザイン論		
授業担当者名	山田　厚志		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	3・4年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	222-1GNL3-03
備考	SD領域必修科目 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	「環境とはなにか？」「自然環境とは？」「都市環境とは？」･･･こうした「～とはなにか？」と絶えず問い続ける姿勢こそ、大学生に求められる基本的態度である。 　とりわけデザインという極めて社会的な営みを学ぶ者は、地球環境の現状や持続可能な地域社会のあり方を追求するにとどまらず、さらに一人のデザイナーとして「～とはなにか？」に対して＜かたち＞という「こたえ」を示す力量が必要とされる。 　本授業に主体的に参加することによって、近い将来に力を発揮するデザイナーとなるために必要不可欠な知的探究心や環境知識を習得し、自らが生み出す＜かたち＞に反映できるようにすることが到達目標である。
ディプロマポリシーとの関連	知識・技能・表現◎
授業の概要	・毎回の授業冒頭に「環境キーワード」を一つ示してグループディスカッションを行う。 ・続いて基本となる環境知識や考え方などをパワーポイントを使用して講義する。これが「デザインする前提として地球や地域の環境についてよく考えること」の重要性を学ぶ出発点である。 ・毎授業が単なる座学にとどまることがないよう、学生間の議論や地域社会への取材など、積極的に参加することが自ずと求められる仕掛けを、さまざま盛り込む。 ・意欲的に取り組む工夫をしたレポート課題をほぼ毎回授業時に出題する。 ・必要に応じてズームを活用して外部ゲストを招き、最新の話題を提供をする。
学生に対する評価の方法	・この授業では授業への《参加度》を最も重視する。参加とは「興味を持って主体的に授業の場に加わって自ら考え、発信する」ことである。 ・求められることは授業への「受身的出席」ではない。本授業では受講生に参加を求めるため、「参加する意欲が湧く充実した授業」を毎回実施するよう心がける。 ・学生の＜参加度＞の具体的な評価は、 ①授業での発言回数など参加姿勢(20%) ②課題レポートや小テストの評価(40%) ③授業で用意する「社会に環境デザインを発信する課題」の評価　(40%)
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　授業ガイダンス…この授業に求められる教員・学生双方の姿勢の確認など ＜第一部　環境デザイン概論＞ 第02回　環境デザイン概論1･･･「環境デザインとは何か？」など 第03回　環境デザイン概論2･･･「SDGs」の時代を迎えてデザイナーに求められる姿勢 ＜第二部　企業や行政の環境活動＞ 第04回　「なごや環境大学とは？」･･･名古屋の先進的取り組みの紹介と参画の促し 第05回　企業活動と環境問題･･･プランニング業・建設業・製造業等の実例報告 第06回　企業活動と環境問題･･･プランニング業・建設業・製造業等の実例報告2 第07回　企業活動と環境問題･･･CSRからCSVへ、さらには＜SDGs＞の実現をめざして 第08回　企業活動と環境問題･･･SDGsと企業活動の連動、環境をビジネスチャンスに ＊毎授業後半にグループディスカッションと次回授業時に復習レポート提出 ＜第三部　環境意識の変遷と先進事例に学ぶ＞ 第09回　「環境問題のエポックメーキング」①地球環境の「保存」と「保全」概念 第10回　「環境問題のエポックメーキング」②藤前干潟と愛・地球博･･･当事者意識萌芽 第11回「環境問題のエポックメーキング」③東日本大震災と原発･･･レジリエンス元年 第12回　都市環境のトータルデザイン…欧州・アジア・日本の先進的取り組み紹介 第13回　地球環境のトータルデザイン…SDGsのめざす世界を表現するデザインの力 ＊毎授業後半にグループディスカッションと次回授業時に復習レポート提出 ＜第四部　授業成果のふりかえり＞ 第14回　授業成果発表①･･･「なごや環境大学」の環境講座受講体験発表など 第15回　授業成果発表②･･･「SDGs」と自己の学習成果との関りの確認など ＊環境講座体験レポート・最終課題レポートの提出と授業振り返りディスカッション ◎13回～15回目のどこかで「学生受講結果アンケート」を実施する。 （注：授業は最新の環境関連事象の発生等によって内容・順序が変更することがある）
使用教科書	・共通テキストとして、なごや環境大学編『なごや環境ハンドブック』を使用する。配布方法は初回授業時に説明する。 ・そのほか毎回、授業レジュメを配布する。また、必要に応じて参考資料・新聞記事なども毎授業時に紹介・配布する。
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	・毎朝届く新聞の「環境関連報道」を読んで考え、必要と思えばスクラップする。(毎朝) ・授業最後に示される次回授業の予告と事前学習すべき事がらについて予習する。(毎回) ・授業で勧められた「環境の現場」に自らや仲間とともに出かけてみる。(適宜) ・課題として与えられる外部環境講座への参加とレポートの作成をおこなう。(１回60分) ・使用テキストをもとにした課題レポートを作成する。(1回120分) ・授業で紹介した環境情報や企業の環境活動などについて復習する。(週30分)

(デザイン学科･実務経験のある教員担当科目)